

「おたがいさま」と 「おもてなし」

飄

々

広報委員

岡山 智亮

新型コロナウイルスが5類感染症に移行された5月以降に、園児の内科健診のため、ある幼稚園にお邪魔した際、園長先生との話がとても盛り上がりました。新型コロナウイルスが5類感染症に移行されてから、園の対応として何か変更した点があるかお尋ねしたところ、園としてはまだまだ体温測定をこまめにするので、早退してもらうことがどうしても多くなってしまふ、とのことでした。その時に私はふと、ジブリ映画の「崖の上のポニョ」の一場面を思い出しました。保育園で赤ちゃんを預かる先生が「ちょっと熱があるけど、元気だから大丈夫でしょう」と言って赤ちゃんを預かってくれる場面があります。今でこそ病児保育等が充実しており、親としては仕事と子育ての両立が成り立ちやすい環境になってきていますが、例えば昭和のころであればこういった光景は日常茶飯事だったのかなと想像します。しかし、今の時代（特に新型コロナウイルス出現後）ではあまりお目にかかれない光景かもしれません。子供を預かる側の園長先生からすると、もう少し寛容な対応をとりたいところではあるが、いろいろな立場や考え方もあるのでなかなか難しいとのことでした。もともと日本には「おたがいさま」というとてもいい言葉がありますが、最近ではあまり聞くことがなくなっている気がして寂しい気がします。おっしやって、確かに一理あるなど感じさせられました。どこかで相手に迷惑をかけないようにと思いながら生活していたり、逆に相手の言動によって迷惑をかけられたりしたときに許容できなかつたりすることが、ニュースを見ているのも多くなっているのかなと感じることがあります。

話は変わってイギリスのある団体が「人助けに関する国際ランキング」なるものを2009年から

毎年実施しているらしいです。複数の項目に対してアンケート形式で統計をとるようですが、日本はこのランキングで毎年最下位争いをしているようです。この調査が実情をどれだけ反映できているものなのかわかりませんが、私たちにとって立ち止まって考えないといけないものでもある気がしました。アンケートの中身としては「この1か月の間に、見知らぬ人、あるいは、助けを必要としている見知らぬ人を助けたか」、「この1か月の間にボランティアをしたか」、「この1か月の間に寄付をしたか」という項目について各国の人にインタビューを行い採点されているようです。さて自分はどうかと、1か月間を振り返りましたが、残念ながらどれも当てはまりませんでした。皆さんはどうでしょうか？

東京オリンピック招致の際に「お・も・て・な・し」という言葉が大流行しました。海外から日本を訪れる観光客の中で日本の「おもてなし」を実感される方は確かに多いと思います。ただ、「おもてなし」という言葉はいわゆるお客さん相手に使われることが多いかと思えます。そこから考えると、日本人の特性としてお客さん相手に対する対応には光るものがあるのかもしれませんが、奉仕の精神としては「人助けに関する国際ランキング」が示すように、もしかすると他国に比べて劣るところがあるのかもしれない。日本人の中に奉仕の精神を持っている人が少ないとは思いたくないし、実際にそうであるとも思えません。では、なぜランキングで最下位争いをしてしまうようなことになっているのか考えてみました。個人的な意見になりますが、アンケートの項目にもある「見知らぬ人」というところがポイントな気がしました。日本人はよくコミュニケーションが苦手と言

われることも多く、見ず知らずの人に対して声をかけにくい傾向が人助けの邪魔をしてしまっているのかなと自分の考えとしては着地点を見出してみた次第です。

コロナ禍から落ち着きを取り戻しつつある中で、日本を訪れる外国人観光客が増えてきていると思います。「おもてなし」では他国に負けない魅力があり、日本を訪れた外国人はその旅行を堪能して帰国される人が多いと思います。そこは日本人としてやはり誇るべきところかなと思いますし、その他にも日本人が誇れるところは数多くあると思います。ただし、外国人観光客の増加によっ

てさまざまな問題も生じてきており、何でもかんでもウエルカムではよくないと思います。物言わないといけない事象に対してなかなか言えない国民性もあるかと思っています。現代を生きる中で私たちとしては「おたがいさま」というように元から持ち合わせている心の寛容さなど、良いところは大切にしていきながら、人との付き合い方として「おもてなし」だけではなく、より深く私たちのパーソナリティ（日本人として大切にしているものなど）を理解してもらうためのコミュニケーション能力を身に付けていかなければならないなと思いました。

日医FAXニュース

2023年（令和5年）8月25日 3159号

- 薬価制度、「場当たりの」見直しを懸念
- 在宅自己注の「材料加算」の明記を
- コロナ5類移行後「手引き」を初改訂
- 都道府県・医療圏別のデータ集を公表
- 学校保健への取り組み、医師会に調査
- ヘルパンギーナ、3.06に減少

2023年（令和5年）8月29日 3160号

- 一般会計、33兆7,275億円を要求へ
- 24年度改定の「基本方針」議論スタート
- 基本方針「物価高騰」「賃上げ」対応を
- コロナ定点、17.84に増加

2023年（令和5年）9月1日 3161号

- 改定に向け、「議論の整理」を提示
- 5種混合ワクチン、定期接種化を了承
- がん研究の報告書案、厳しい声が続出
- 結核罹患率、「8.2」に減

2023年（令和5年）9月5日 3162号

- 医療DX推進へ、安全・費用の不安解消を
- 昨年度の概算医療費、総額「46.0兆円」
- 「薬価改定は診療報酬と同時期が基本」
- 特別支援学校、災害時は障害児の避難所

2023年（令和5年）9月8日 3163号

- 日医会員数、17万5,000人突破
- 過労自殺の医師を哀悼、重く受け止める
- インボイス制度、事業受託時に注意を
- 「緊縮財政派」に働きかけを
- コロナ確保病床、「突然ゼロだと混乱」
- 診療所は非課税、病院は軽減税率に
- 外国人患者向け、新サイト開設
- 「特設サイト」で災害対策を紹介
- 「有事」の医師会活動を紹介

2023年（令和5年）9月12日 3164号

- 医療DX、「現場が使いやすい環境に」
- 現場感覚を忘れず、日医に反映を
- コロナワクチン「特例臨時接種」廃止へ
- コロナ定点、20.50に増
- 咽頭結膜熱、過去5年比で「かなり多い」

2023年（令和5年）9月15日 3165号

- 「安定政権で強力な政策推進を」
- 医療機関の経営、「回復」とは言えず
- 10月以降のコロナ診療報酬特例を議論
- 共同利用施設、災害に備えを
- 医師会共同利用施設「人材確保」が課題
- 臨床医、子どもたちが疑似体験